



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑應答. 地球 1930, 14(1): 79-80

ISSUE DATE:

1930-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183776>

RIGHT:

立銀行の支店がある、エンケル飛行會社はテヘランとの間に定期航路をひらく、有名な回教の廟があるために巡禮の客が年々二十萬にも達する。

道路は近年大に改修されて、二、三噸積の荷物自動車は各都市間を平均一時間二十五基米の速力で運輸を行ひ商況次第に活潑になった、勿論古來からの駱駝も用ひられる、このメシエツドからの各地への距離をしめすと、

距離		運賃		時間	
メシエツド	ドヅグリア間	九八〇	料	六〇〇	克蘭
同	テヘラン	一、〇五〇		六〇〇	
同	エジカバード	二八〇		六五〇	
同	ヘラツド	三五〇		五〇〇	
				一八	

外國品の輸入は南方は印度のガラチからベルチスタンをへてドヅグリアにつき自動車でメシエツドにくる、日本の綿糸や雜貨類もこの途をとる。

北方からはトルキスタンのエジカバード迄は鐵道できて、それから自動車にのせる、すべて露國の產物である。但しガラチからドヅグリアまでの鐵道運賃は噸當り三十弗である。從來この地方は交通運輸の方法が極めて幼稚であつた爲、各バザアの商人は常に相當のストックを保有する必要があつたので、今日でも六ヶ月分位の賣捌見込品を仕入れるくせがある、メシエツドのバザアの商人が輸入した外品の過半はその地で消費されるが、其の殘餘はホラサンのネシャブール、

又はシスタン州のナスラタバード市等にも散布される。

主なる輸入品は各種綿布、綿糸、砂糖、茶、石油、陶器、ガラス製品、絹布、羅紗地、雜貨諸金具で中にも綿絲綿布が大部分である、従前は英國マンチエスターが、この市場を獨占したが、近來ソウイエツトが砂糖及石油と同様に綿布にもダンピング的商法をとるので、マンチエスター品をこの市場から全く驅逐してしまつた、綿糸は日本品及ボンベイ品が輸入され、絨氈の綿糸につかはれる、輸出は羊毛及棉花、乾果等であつて、阿片は概ねソウイエツトへ其他は印度及歐米に向けて輸出される、同地へ輸入される綿糸は年額一萬五千捆であつて、五千捆はボンベイ、七千捆は日本品であるといふ。

質疑應答

(問) 支那の航空事業の發達 (京都T生)

(答) 一九〇三年ライト兄弟が世界最初の飛行に成功した當時でも、航空機が將來交通機關になりうることとは豫想されたが、しかし十年程の間は一種の遊戲であつた、ところが戰後十年の今日歐米の主要國は殆ど大都市間の定期航空線を完成し、アジア洲でも波斯のごときは、既に航空時代に入つてゐる。支那の如きも汽船や汽車の旅といふよりも、それを飛越して將に航空時代に入らんとしてゐる。露國は早くから西比利亞のウエルフネウジンスクから庫倫へ、獨逸のルフトハン

ザ會社は中國、アジアから天山南路をへて張家口天津に至る航路を調査に來たこともあり、米國は現に航空發展會社が支那の中國航空會社と契約し支那で其の事業に従事し、日本も上海福岡間、東京大連間の航路を開始したのである。

支那の航空史は二期に分れ、第一期は僅に二十年の過去に溯り、光緒二十七年に一米人の舉行があり一九〇八年に佛人が上海で舉行して死んだ、次で一九一〇年留學生が歸國した翌年の革命で計畫は破れた、一九一六年に曹錕が飛行學校を設立したことがあり、民國五年に福州に飛僭學校、上海に飛行場ができた其後いろ／＼變遷があつて民國十七年航空界が復活し、滿洲の張學良は現に二百臺の飛行機をもつてゐる南京政府になつて支那の飛行學校が外國將校に代るやうに進歩するに至つて第二期に入る。それは軍事用でなく商業用の飛行時代に入つたといふ意味であつて、現在は支那で飛行機を製作するやうになり上海、廣東、福建の三ヶ所で相當なものが組立てられるやうになつた、かくて一九二八年に中華航空協進會が設立され、同年十二月、民間飛行機廣州號が張氏周氏に操縦されて、廣東、漢口、南京、北平、奉天、天津の長途飛行に成功した、現在國民政府では官辦中國航空會社をたて鐵道部長孫科は米國の航空會社と契約を結び、一九二九年十月二十一日から上海漢口間の定期飛行をやつてゐる、時間割左の如し。

上　　り

下　　り

漢口發　午前八時四五分　上、發　午前八時〇〇分

九江着　同　十時二五分　南京着　同　十時一〇分

九江發　同　十時五五分　南京發　同　十時三〇分

南京着　午後一時三〇分　九江着　午後一時五五分

南京發　同　一時〇五分　九江發　同　一時三五分

上海着　同　四時〇〇分　漢口着　同　三時一五分

今の使用機は最新式ローニンガアンフイアン型で水陸兩性であり五百二十五馬力の發動機をつく旅客貨銀は上海南京間片途四〇元、九江迄は一一〇元、漢口まで二百元、漢口から九江まで六〇元、南京まで一〇〇元である、操縦士の外六人乃至八人の坐席がある。目下支那人は外人の見習をやつてゐる。

支那政府はこの勢に乗じ上海南京四川成都の全線を完成しやがて南京開封、開封青島に及び、南京奉天、南京廣東をはじめ途には漢口から西安、迪化に至らんとしてゐる。日支の聯絡、福岡上海間も近く開通を見るであらう。(F)

(問) 日本の山岳地方の新しき地圖はありませんか 天阪一生 (答) 陸地測量部新刊の五色刷五萬分一白馬嶽及立山近傍圖、槍ヶ嶽及乗鞍嶽近傍圖、竝に富士山近傍圖の三圖がある。登山者の便に供する爲め在來の地形圖に修正を加へたものである。尙地圖を讀み易くする爲め水平曲線は褐色に水部は藍色に、特に登山道は赤色を以て表し、著名なる山或は勝地等は別に寫眞版を挿入してあるから山岳地方探勝者の好伴侶である。